

国際会議「20th Asian Chemical Congress (20ACC) IMS-CU 二国間シンポジウム」について

報告：生命・錯体分子科学研究領域 飯野 亮太

2025年6月23日～27日にバンコクで開催された第20回アジア化学会議(20th Asian Chemical Congress, 20ACC, <https://acc2025thailand.com/>)において、チュラロンコン大学と分子研の合同シンポジウムを開催しましたので報告いたします。

アジア化学会議は1981年からアジア・オセアニア地域の各国で開催されている歴史ある会議で、第20回となった20ACCはタイ化学会主催、アジア化学会連合(Federation of Asian Chemical Societies, FACS, <https://facs.website/>)の後援で開催されました。私は今回が初めての参加でしたが、予想以上に規模の大きな会議で驚きました。国際純正・応用化学連合(IUPAC)会長のEhud Keinan教授(Technion - Israel Institute of Technology)も参加しており、開会式の直後に行われたKeinan教授の基調講演[Humanity faces a bright future, and so Chemistry]はスケールが非常に大きく、未来に対する楽観に満ちた講演でとても印象的でした。日本からも著名な先生方が多数参加され招待講演を行っていました。後日調べたところ、FACSにはアジア・オセアニア地域の33カ国の化学会(香港化学会を含む)が加入しているとのこと、規模の大きさに納得できました。

今回の20ACC実行委員長のSupa Hannongbua教授、現・タイ化学会会長のVudhichai Parasuk教授の両氏には、分子研アジアインターンシッププログラム等で大変お世話になっており、このご縁により今回、20ACCで合同シンポジウムを開催することになりました。シンポジウムのタイトルは「IMS-

CU Bilateral Symposium for Driving Forward Frontier Research]で、チュラロンコン大学から3名、分子研からは秋山修志教授、山本浩史教授、奥村久士准教授、および飯野の4名が講演を行い、活発な質疑応答がなされました。講演者とタイトルのリストは下記となります(講演順)。

Ryota Iino, Rational engineering of high performance artificial molecular motors

Sumrit Wacharasindhu, Revisiting the desulfurization process via photochemical or electrochemical routes: A mild and green approach to heterocycle synthesis

Shuji Akiyama, One day about 2.2 billion years ago, cyanobacteria anticipated the timing of the next sunrise

Preecha Kittikhunnatham, Enhancing the catalytic efficiency of MOFs for cellulose hydrolysis via postsynthetic modification with chlorosulfonic acid

Hiroshi Yamamoto, Chirality-induced

spin selectivity in chiral solids
Wid Mekseriwattana, Microwave-assisted, shape-controlled synthesis of nanoparticles: The case of iron oxide nanocubes
Hisashi Okumura, Molecular dynamics simulation of protein aggregation

シンポジウム後はチュラロンコン大学化学科の教員と共に、夕食を取りながら意見交換を行いました。今後の両機関のさらなる連携強化についての議論だけでなく、タイと日本の教育システムや育児習慣の違い等、話題は幅広い範囲におよびました。お互いをよりよく知り親交をさらに深める大変貴重な機会となりました。

タイをはじめとするアジアの国々との連携の強化は、分子研の国際的な認知度をより高めるため、また分子研のアクティビティをより高めるために今後ますます重要になると考えております。分子研アジアインターンシッププログラムや総研大アジア冬の学校といった取り組みへの、皆様の引き続きのご協力を何卒よろしくお願いいたします。

